

会よりのお知らせ

幹事長就任にあたって

南 茂 夫

光学懇話会の誕生は1952年ですから、わが国のカメラ生産が戦前を上回り、活気を帯び始めた頃ということになりましょう。日本の光学器械工業はカメラ関連の生産が80%以上を占めるというのが特徴であり、今日のカメラ王国の評価を得るに至る過程にあつて、本会はアカデミックサイドは勿論のこと、開発・生産面においてもプロモータの役割を大きく果してきました。

わが国におけるカメラを主体とした光学技術の開花と結実を第一世代と考えれば、現在は光学技術第二世代すなわちオプトエレクトロニクスを中核とする時代に入っていると思います。どちらかといえばカメラ中心でバランスに欠けるきらいがあつた、わが国の光学関係者の体質改善の時でもあります。一方、光技術はレーザーの登場によって生れ変わったという認識のもとに、高度情報通信の夢を実現すべく、電波から光波へと大規模な技術展開が産業界中心になされています。この流れは次々と新しい周辺技術の流れを集め、これまでの光学器械工業とは全くスケールの異なる光産業という大河へと変容しつつあります。

伝統や経験という言葉が死語となろうとしている高度技術時代です。私どもも光学懇話会の伝統と歴史の上に安閑と胡座をかきわけには参りません。本会は研究同好会的雰囲気からの脱皮と活性化を求め、藤原、大頭両幹事長の時代から、新しいビジョンの確立、会員の増強と意識改革など積極策がとられつつ成功裡に推移してきました。この路線をさらに拡大していくためには、今後国内関連他学協会との協力、諸外国の光学界との適切な対応が課題となるでしょう。光の科学と技術を基盤とする本会は、さらに視野を広めつつ常に原点に立ち返り、“和して同ぜず”の姿勢で自己のアイデンティティを明白にしながら進むべきであると考えます。

より一層の活力と魅力を備えた会に発展するため、会員皆様のご協力をお願いする次第です。

(阪大工)

編集委員長に就任して

山 口 一 郎

このたび、光学懇話会の機関誌「光学」の編集の責任者を命ぜられ、役目の重さを痛感している。「光学」を、現在の社会にあつて大きな注目を浴び、発展を遂げつつある光学および光技術の学問的基盤を支える雑誌として、これまでの15年にわたる発展を引き継いでますます内容の充実した魅力あるものにしていきたいと考えている。

最近の書店の大型化、店頭に溢れんばかりに積まれた新刊書の山を見ると、それらの出版への活気に感心するとともに、一方では一年後にこれらの内のどれだけが生き残っているだろうか、と考えずにもいられなくなる。学会誌としては毎号の読みごたえとバックナンバーを揃えたときの系統的な蓄積との両方が要求されると思われる。

研究や新技術開発におけると同時に、出版でも独創性が最も重要ではないだろうか。とくに今日のように商業誌が技術分野においても迅速に重要な情報を流す時代にあつては、学会誌の地位もか

なりおびやかされている。このような状況のもとではとくに学会本来の存在意義を良く考え、その会員の自発的かつ奉仕的な運営への参加精神にもとづく自由度を生かすことによって、商業誌ではできないような企画をたててそれを実行する努力を払う必要がある。その一例としては、商業誌がともすると主観のないしは興味本位に、微分的な観点から記事を集めがちなのに対し、学会誌はたんに微分だけでなく積分的に、長い目で見て良い仕事をもしっかりと識別して、それを社会に啓蒙して育てる任務を併せ持っているといえよう。

現在の光学懇話会の予算の約8割が「光学」の出版に使われていることを考えると、「光学」の最も大切な役目として会員の仕事の成果発表と意見交換の場の提供がある。応用物理学会で発表される光学関係の研究も原著論文としてどしどし投稿していただきたい。光学や光技術に関連する日本の先端的な仕事の多くが、まず外国の雑誌で発表されることが多いのはわが国の水準の高さを示すもので喜ばしいことであるが、少なくともそれらの詳細については日本語で読み十分に咀嚼できたらと思う。科学技術は国境を越えて人類共通の活動ではあるが、それが生み出された国においてまず正当な評価を受け、そこでいっそうの発展のきっかけを得るようにすることも重要である。このために、「光学」への原著論文の投稿を積極的に募り、かつ掲載の早さを確保するとともに、国内外の他の学会誌との交流について検討することも必要になる。また光学懇話会の活動の窓口としての「光学」を利用して、日頃は会の運営に直接は関わっていない会員からもいろいろな意見を「さろん」欄などに積極的に寄せていただけたらと思う。今日のように学問分野の境界がはっきりしなくなり、なおかつ境界領域から新たな発展の生まれる場合の多い時代においては、以上の対話はますます重要となっている。来年から実施される発行の月刊化もそのために大いに有効に働くであろう。

結論として、「光学」の存在意義はまず第一に光学懇話会会員の学問や技術水準の向上に極力役立つことにあり、そのためには、たんに情報を得るという受動的な利用法だけでなく、会員相互の仕事を発表しあい、刺激しあって研鑽を積むという能動的な利用法にもさらにいっそうの目を向けていただけるよう、編集委員会一同で工夫を凝らし、その実行に努力したいと思っている。ついては会員諸賢の深いご理解とご協力とを切にお願いする次第である。 (理研)

○ 昭和 61 年度幹事

昭和 61 年度幹事は次の方々に決定しました。

● 新任の幹事

新井 保則(旭 光 学) 石川 和枝(上智大理工)
 一岡 芳樹(阪 大 工) 伊藤 雅英(東 大 生 研)
 今井 正明(北 大 工) 井元 信之(武蔵野通研)
 岩田 耕一(阪 府 大 工) 梅垣 真祐(東 大 工)
 永寿 伴章(機 械 研) 大山 永昭(東工大像情報)
 岡田 勝行(千 葉 大 工) 小野 雄三(日 本 電 気)
 海津 優(国土地理院) 小池 雅人(島津製作所)
 小島 誠治(筑波大物工) 関根 靖雄(光学工技協)
 野口 勝(富士フィルム) 船戸 広義(リ コ ー)
 本田 辰篤(光産業技振協) 三橋 俊文(東 京 光 学)
 村原 正隆(東 海 大 工) 安田 賢司(富士写真光機)
 矢田公太郎(ミ ノ ル タ) 山口 一郎(理 研)

山下 泰正(東京天文台)

● 留任の幹事

有本 昭(日 立 中 研) 伊藤 進一(東京工芸大工)
 稲垣 雄史(富 士 通) 内川 恵二(東工大総理工)
 大江原弘昌(京 セ ラ) 大頭 仁(早 大 理 工)
 菊池 恭孝(ユニオン光学) 北出 篤夫(名 大 工)
 木本輝代志(日 本 光 学) 久保田敏弘(京都工織大)
 近藤 英樹(日 写 研) 桜井 慧雄(計 量 研)
 佐藤 建(三菱電機材研) 佐藤 平八(防 衛 大)
 関沢 秀和(東 芝 総 研) 高島 幸史(東北大科研)
 高瀬 弘(オリソパス) 滝沢 國治(N H K 技 研)
 豊岡 了(埼 玉 大 工) 中島 真人(慶応大理工)
 兵藤 直規(オ ハ ラ) 保立 和夫(東 大 工)
 松丸 隆(小 西 六) 松本 和也(キ ャ ノ ン)
 南 茂夫(阪 大 工) 峯本 工(神 戸 大 工)

○ 昭和 61 年度常任幹事

昭和 61 年度常任幹事および役務分担は次のとおり決定しました。

幹事長	南 茂夫	
副幹事長	松本 和也	
編集	山口 一郎	有本 昭(文献抄録)
庶務	高瀬 弘(渉外)	岡田 勝行(記録)
	梅垣 真祐(広報)	
会計	関沢 秀和(収支)	関根 靖雄(予算)
事業	石川 和枝	大江原弘昌
	大山 永昭	桜井 慧雄
	豊岡 了	本田 辰篤
	安田 賢司	
関西	岩田 耕一	久保田敏弘
	佐藤 建	矢田公太郎

○ 昭和 61 年度光学編集委員

昭和 61 年度編集委員は次の方々に決定しました。

委員長	山口 一郎(理 研)
委員	
青木 貞雄(筑波大理工)	有本 昭(日立中研)
鶴飼 一彦(北里大医)	梅垣 真祐(東大工)
小川 良太(旭光学)	小倉繁太郎(キャノン)
小野 雄三(日本電気)	小林 盛男(茨城通研)
小松 進一(早大理工)	庄野 裕夫(東芝)
武田 光夫(電通大)	丹野 直弘(山形大工)
土肥 寿秀(ミノルタ)	中島 俊典(理 研)
永田 浩(日本光学)	西 師毅(電総研)
服部 肇(名古屋市工研)	藤原 裕文(室蘭工大)
前田 三男(九大工)	松本 弘一(計量研)
峯本 工(神戸大工)	三宅 洋一(千葉大工)
村上 昭年(九大工)	吉田 稔(岐阜大)

○ 昭和 61 年度文献抄録委員

昭和 61 年度文献抄録委員は次の方々に決定しました。

委員長	有本 昭(日立中研)
委員	
石川 純(計量研)	石川 弘美(富士フィルム)
伊藤 雅英(東大生研)	梅田 倫弘(静大電子研)
近江 成明(H O Y A)	大山 永昭(東工大工)
岡田 勝行(千葉大工)	河合 滋(日電光エレ研)
久米祐一郎(早大理工)	後藤 博志(リコー)
斉藤 信雄(N H K 技研)	白柳 守康(旭光学)

須田 繁幸(キャノン) 立野 公男(日立中研)
 中島 隆(茨城通研) 中嶋 芳雄(聖マ医大)
 南波 昭宏(オリンパス) 浜中賢二郎(パイオニア)
 藤間 晴美(東芝総研) 宮前 博(小西六)
 森 孝司(日本光学) 山崎 清人(オハラ)
 秋山 光一(コーワ) 及川 正尋(日本板硝子)
 内山 誠治(東工大精研)

○ 昭和 60 年度第 5 回常任幹事会

昭和 61 年 1 月 13 日(月)に東京、虎の門の第 9 森ビルにおいて開催され、庶務、会計、「光学」編集、F 委員会答申、講演会・講習会の経過、研究グループの活動、名簿作成、光学論文賞などについて、報告と審議が行なわれました。

○ 昭和 60 年度第 6 回常任幹事会

昭和 61 年 2 月 17 日(月)に前記の第 9 森ビルにおいて開催され、前記の内容、総会提出資料等について報告と審議が行なわれました。

○ 昭和 60 年度第 5 回編集委員会

昭和 61 年 1 月 10 日(金)に東京、本郷の学士会館において開催され、「光学」の各号の編集状況と企画等について報告と審議が行なわれました。また、「光学」の月刊化についても討論を行ないました。

○ 第 12 回冬期講習会報告

第 12 回冬期講習会は、昭和 61 年 1 月 28 日(火)より 1 月 30 日(木)までの 3 日間、東京、芝公園の機械振興会館において、81 名の受講者を迎えて開催されました。講習は「結像光学用の材料と加工」を主題として、ガラスおよび高分子材料の光学特性の基礎から研削、成型、検査・計測法までを含めた幅広い分野を集成した内容でした。なお、本号の「さろん」に中村氏の受講報告がありますので、ご一読ください。また、本講習会を含めて過去に行なわれました講習会・セミナー等のテキストをご希望の方は、応用物理学会光学懇話会(電話 03-238-1043)にご連絡ください。(埼玉大工 豊岡 了)

○ 昭和 61 年度光学懇話会春季講演会のお知らせ

昭和 61 年 5 月 21 日(水)に筑波研究学園都市の計量研究所において見学会を兼ねて開催されます。詳細は前号掲載の案内をご覧のうえ、お早めに参加申込みをしてください。

○ 第23回サマーセミナーのお知らせ

「新しい情報処理技術と光エレクトロニクス」のテーマで、昭和61年8月21日(木)～23日(土)に長野県下諏訪町の山王閣において開催されます。詳細は本号巻末綴込みの案内をご覧ください。お早めに参加申込みをしてください。締切は6月21日(土)です。

○ 第17回画像工学コンファレンス論文募集のお知らせ

昭和61年12月2日(火)～4日(木)に東京、虎ノ門の消防会館2階・ニッショーホールにおいて開催予定の第17回画像工学コンファレンスの論文を募集いたします。詳細は本号巻末綴込みの論文募集をご覧ください。お早めに講演申込みをしてください。締切りは7月1日(火)です。

○ 生理光学研究グループよりのお知らせ

● 60年度冬期研究会の報告

昭和60年度冬期生理光学研究会は、1月31日東工大長津田キャンパスにて行なわれました。71名の参加者があり、16件の発表に対し、活発な討論が行なわれました。詳細は本号「さろん」の参加報告をご覧ください。なお、抄録集に残部があります。ご希望の方は、60円切手5枚を同封の上、北里大学医学部・鶴飼一彦(〒228相模原市北里1-15-1)までお申込みください。

(北里大医 鶴飼一彦)

○ 光計測研究グループよりのお知らせ

● 第23回光計測研究会の報告

昭和60年12月23日(月)に東大生産技術研究所において26名の参加のもとで開催いたしました。「自動車外形の非接触測定」(豊田中研, 伊藤 博)「半導体レーザーの周波数偏移を利用したデジタル干渉計」(北大工, 石井行弘)の2件の講演を中心に活発な討論が行なわれました。

(埼玉大工 豊岡 了)

○ 微小光学研究グループよりのお知らせ

● 第20回微小光学研究会の予定

日時: 昭和61年4月25日(金) 13:00～17:10

場所: 東京大学生産技術研究所 第一会議室

地下鉄千代田線乃木坂駅下車 徒歩2分

演題: 1. OFC 報告 伊賀健一(東工大)

2. IGWO 報告 国分泰雄(横浜国大)

3. 並列光演算システム

谷田 純(阪大)

4. マイクロフレネルレンズによるCD用対物レンズ

西尾 隆(パイオニア)

5. 導波路光変調ソシアレイ

片岡慶二(日立中研)

6. 石英系光導波路の微細加工

河内正夫(NTT 通研)

7. SI 基板上共振反射型一モード光導波路

国分泰雄(横浜国大)

8. 量子井戸レーザーにおけるコヒーレンス

荒川泰彦(東大生研)

参加費: 1,000円(資料, お茶代含)

問合せ先: 微小光学研究グループ事務局

野口康彦 電話 03-342-1981

○ 光コンピュータ研究グループよりのお知らせ

● 第14回光コンピュータ研究会の予定

応用物理学会光学懇話会光コンピュータ研究グループ・電子通信学会光コンピュータ時限研究専門委員会 共催

日時: 昭和61年6月6日(金) 14:00～17:00

場所: 工業技術院 共用講堂会議室(筑波)

国鉄常磐線荒川沖駅下車 関東鉄道バス筑波大中央行, 建築研行, いずれも並木二丁目下車 徒歩5分

演題: 光コンピュータのセルラ・アーキテクチャ

谷田貝豊彦(筑波大)

光学的手法による音声信号の処理

広瀬啓吉, 藤崎博也(東大)

参加費: 無料. なお, 入会される方は年会費2,500円

および入会金1,000円が必要になります. 会場から徒歩1分以内にある広報センター(工業技術院の研究所全体の展示場)および地質標本館は予約なしで入場できます(無料).

問合せ先: 日本学会事務センター

光コンピュータ研究グループ事務局

電話 03-817-5831, 5801 または,

東京大学生産技術研究所第一部 伊藤雅英

電話 03-402-6231 内線 2122

○ 第3回光ファイバセンサワークショップ講演会および論文募集

主催: 応用物理学会光ファイバセンサ研究会

日時: 昭和61年6月23日(月) 9:00～17:00

場 所：虎ノ門パストラル 葵の間
 東京都港区虎ノ門 4-1-1 電話 03-432-7261
 講演論文内容：光ファイバセンサの基礎，デバイス，システム，応用に関する論文
 論文申込み締切：昭和61年4月24日（木）
 論文題名，著者名，所属，連絡先を明記の上，下記事務局へ申し込んでください。
 論文申込み方法：採用の通知に従い，当会指定の原稿用紙8枚以内（日本語または英語）にまとめて昭和61年5月30日（金）までに送付してください。
 講演時間：一般講演 20分/1件
 聴講参加申込み方法：氏名，勤務先，所属，所在地，電話番号をご記入の上，往復はがきにて申込みください。
 定 員：250名（先着順受付）
 参加費：一般5,000円・学生3,000円（昼食付き）
 （論文集代金1部4,000円）
 当日徴収（講演者の方からも参加費を徴収）
 申込みおよび問合せ先：
 〒105 東京都港区西新橋 2-7-4
 第20森ビル5F
 (財)光産業技術振興協会内
 「光ファイバセンサ研究会」事務局
 電話 03-508-2091

○ 新入会員

個 人

会員番号	氏 名	所 属
A 2157	鎌田 洋	岩崎通信機(株)
2158	小松 忠紀	(株)東芝 生産技術研究所
2159	新井 保則	旭光学工業(株)
2160	鈴木 憲章	日本写真機工業会
2161	中島 光洋	岐阜工業高等 専門学校
2162	高田 正信	セイコー電子工業 (株)
2163	奥田 洋	同 上
2164	坂本 貴司	アンリツ(株)
2165	白木 真	日本楽器製造(株) 基礎研究所
2166	奥井 敬造	ニッタ(株)
2167	能田 政秀	花王(株)東京研究所
2168	石坂 昭三	筑波大学生物科学系
2169	野沢 敏秀	オリンパス光学工業 (株)

2170	贅田 義朗	三菱レイヨン(株) 中央研究所
2171	石川 和夫	東京工芸大学工学部
2172	今給黎哲郎	建設省国土地理院
2173	河合 宏政	日立化成工業(株) 五井工場
2174	青柳 哲次	トムソンジャパン (株)
2175	金山 光一	松下電子部品(株)
B 1627	多田 邦雄	東京大学工学部
1628	阿山みよし	東京工業大学 総合理工学研究所
1629	竹島 晃	浜松ホトニクス(株)
1630	高田 秀夫	HOYA(株)
1631	北嶋 勝	トリオ(株)
1632	中田 真琴	中田技術士事務所
1633	青島紳一郎	浜松ホトニクス(株)
1634	大塚 康信	オリンパス光学工業 (株)
1635	松崎 一朗	(株)クラレ 中央研究所
1636	武智 吉信	日本データゼネラル (株)
1637	川本 裕司	東邦電子工業(株)
1638	栗原 高志	オリンパス光学工業 (株)
1639	三村 升平	東京磁気印刷(株)
1640	辻 重樹	シャープ(株) 音響研究所
1641	有富 充利	三菱油化(株) 中央研究所
1642	ベネット キース	丸文(株)
1643	五十嵐 照	(財)日本自動車 研究所
1644	市村 泰彦	(株)小松製作所 電気研究所
1645	久下 慶徳	日本マイクロニクス (株)
1646	高田 秀夫	HOYA(株)
1647	伊藤 治昌	日本電子(株)
1648	二俣 彰男	(株)富士通研究所
1649	竹村聡一郎	ミツミ電機(株)
1650	久保田雅之	三菱電機(株)
1651	関口 修利	オリンパス光学工業 (株)
1652	西ヶ谷一志	東京理科大学理学部
1653	岡田 至崇	東京大学工学部

特別会員

特別会員 81	(株)クラレ中央研究所
82	TELECOM AUSTRALIA HEADQUARTERS LIBRARY
83	(財)電力中央研究所図書室

応用物理学会光学懇話会規則

昭和27年4月1日施行 昭和50年1月1日一部改正 昭和57年1月1日一部改正
 昭和28年4月3日一部改正 昭和50年5月17日一部改正
 昭和47年1月1日一部改正 昭和52年1月1日一部改正

応用物理学会光学懇話会規則を次の通り定める。本規則に定めのない事項については応用物理学会分科会規定の定めるところによる。

1. 名称

本分科会は、応用物理学会光学懇話会と称する。

2. 目的

本分科会は、光学に関する研究の推進および技術の向上をはかることを目的とする。

3. 事業

本分科会は前項の目的を達成するために次の事業を行なう。

- 1) 分科会機関誌「光学」を隔月一定の日に発行し会員に配布する。
- 2) 講演会、研究会、講習会、見学会などを開催する。
- 3) 光学に関する図書を企画編集する。
- 4) その他本分科会の目的達成に必要な事業を行なう。

4. 会員

- 1) 本分科会は前項の目的に賛同する応用物理学会会員（B会員）、本分科会が加入を認め学会理事会がそれを承認した者（A会員）および本分科会が加入を認め学会理事会がそれを承認した機関（特別会員）をもって組織する。
- 2) A会員、B会員および特別会員の資格審査は分科会の会員資格審査基準にのっとるものとする。
- 3) 分科会員は本分科会の事業に限り参加することができる。
- 4) 分科会員（特別会員を含む）は分科会機関誌「光学」の配布を受ける。
- 5) 本分科会の名誉を毀損し、または本分科会の目的に反するような行動があったとき、および会費滞納が連続2ケ年以上になる場合は、分科会は学会理事会の承認を得て除名することができる。

5. 会費

- 1) 分科会員は次の分科会費を12月末日までに前納するものとする。

A 会員	年額	6,000 円
B 会員	年額	6,000 円
特別会員	年額	7,000 円
- 2) 会費を6ヶ月以上滞納した時は機関誌の発送を停止する。

6. 役員

- 1) 本分科会に次の役員をおく。

幹事 若干名（うち幹事長1名、常任幹事若干名）
 但し、幹事長の要請により幹事会が必要と認めるときは副幹事長（2名以内）をおくことができる。
- 2) 幹事長は会務を総括し、学会理事会に出席して会務を報告し、規則の制定および改定、役員を選任、事業計画、事業報告、収支予算決算、その他重要事項の承認を求める。

副幹事長は幹事長を補佐し、幹事長に事故あるときはその職務を代行する。
 幹事は幹事会を構成し、重要事項を審議決定する。
 常任幹事は常任幹事会を構成し、庶務、会計、編集その他の常務を処理する。
- 3) 役員を選任は次による。但し、学会理事会の承認を要する。

幹事は会員の互選により、幹事長は幹事の互選により決める。
 副幹事長及び常任幹事は幹事会の議を経て、幹事長が委嘱する。
- 4) 幹事長および副幹事長は学会正会員でなければならない。

幹事および常任幹事の各半数以上は学会正会員でなければならない。
- 5) 役員任期は次の通りとする。

幹事長	2年（再任できない）
副幹事長および常任幹事	2年以内（連続して再任はできない）
幹事	2年（但し1年毎にその半数を改選する）

7. 会計

分科会の会計は学会会計に包括処理される。但し特別会計とする。分科会の資産は学会に帰属する。

8. 改訂

幹事会が必要と認めるときは学会理事会の承認を得て本規則を改訂することができる。

付則 本規則は昭和59年1月1日より実施する。

光 学 関 連 会 合 予 定

開催日	名 称	開 催 場 所	問 合 せ 先
4/25	第 20 回微小光学研究会	東京大学生産技術研究所 (東京, 六本木)	微小光学研究グループ事務局 野口康彦 TEL. 03-342-1981
5/12-13	微小光学特別セミナー (1986年) 「光メモリーシステム: その材料と 光学系」	石垣記念ホール (東京, 虎ノ門)	微小光学研究グループ事務局 野口康彦 TEL. 03-342-1981
5/21	昭和 61 年度光学懇話会春季講演会	計量研究所 (筑波)	計量研究所 桜井慧雄 TEL. 0298-54-4045
6/6	第 14 回光コンピュータ研究会	工業技術院共用講堂 (筑波)	東京大学生産技術研究所 伊藤雅英 TEL. 03-402-6231 ex. 2122
6/23	第 3 回光ファイバセンサワークショ ップ講演会	虎ノ門パストラル (東京, 虎ノ門)	「光ファイバセンサ研究会」事務局 TEL. 03-508-2091
6/30	第 11 回光学シンポジウム (光学技術・学術講演会)	東京大学生産技術研究所 (東京, 六本木)	NHK 放送技術研究所 滝沢國治 TEL. 03-415-5111
7/6-11	1986 International Optical Com- puting Conference (1986 IOCC)	The Hebrew Univ. of Jerusalem (Israel)	電子技術総合研究所 石原 聰 TEL. 0298-54-5338
7/29-31	First Optoelectronics Conference (OEC '86)	東京工業大学大岡山キャン パス (東京, 目黒)	日本学会事務センター OEC '86 事 務局 TEL. 03-817-5831
8/17-22	Four-Conference Program on Op- tical Materials	San Diego (California)	東京大学工学部 梅垣真祐 TEL. 03-812-2111 ex. 6837
8/21-23	第 23 回サマーセミナー 「新しい情報処理技術と光エレクト ロニクス」	山王閣 (長野, 下諏訪)	東京大学工学部 梅垣真祐 TEL. 03-812-2111 ex. 6837
9/22-26	Symposium on Colour Imaging Systems	Cambridge 大学 (英国)	千葉大学工学部 三宅洋一 TEL. 0472-51-1111 ex. 2941
9/27-30	第 47 回応用物理学会学術講演会	北海道大学 (北海道, 札幌)	応用物理学会 TEL. 03-238-1041 (代)
10/7-9	Fourth International Conference on Optical Fiber Sensors (OFS '86)	サンシャインシティプリ ンスホテル(東京, 池袋)	OFS '86 事務局 TEL. 03-508-2091
12/2-4	第 17 回画像工学コンファレンス	ニッショーホール (東京, 虎ノ門)	第 17 回画像工学コンファレンス事務局 TEL. 03-433-2544

*会よりのお知らせおよび光学関連会合予定欄掲載申込み先:

〒113 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学工学部物理工学科 梅垣真祐 TEL. 03-812-2111 ex. 6837